

発刊を終えるにあたって、心からの感謝

全国保育士養成協議会のいわば顔とも言える『保育士養成研究』の発行は今号をもって終了することとなります事をご報告させていただきます。その理由は、本誌の位置づけが言わば、全国規模の専門誌でありながら、学会誌としての位置でないために、掲載原稿が研究者の業績として、正當に評価がされにくいとの指摘が数年前から寄せられて参りました。そこで、保育者養成教育に特化した学会の立ち上げを検討して参りましたが、理事会及び前回の総会の議を経て正式に決定いたしましたので、個人研究に関しては、新たに立ち上げます保育者養成教育研究に関わる学会誌に委ねることとなりました。厳しい査読を経て、本誌に掲載された個人及び共同で行う質の高い研究が先生方の業績として生かされ正當に評価される態勢を整えるべきとお声を生かし、その道を選択しました。

個人研究は新しい学会に委ねますが、本会としては養成教育に関する研究をますます充実、前進させ、その成果を発信し、提言していくために、従来とは異なる形で装いを新たにしてお披露目させていただきます。会員校の皆様からのご提案をお待ちしております。

『保育士養成研究』の源流を遡ってみますと、創刊号は1983年『保母養成研究年報』として発行されました。33年の長きにわたる伝統ある研究機関誌です。投稿できるのは会員校の専任教職員、第一筆者が会員校専任教職員である共同研究に限定されておりました。現在は会報で概要が報告されているブロック研究成果報告は、第12号(1994年)までは、「ブロック研究報告論文」として掲載されておりました。編集委員の先生方のご努力が大きかったようです。当時、全国保母養成協議会会長を務められた深山幹夫先生は創刊号の巻頭言に次のように記しておられます。

「先生方の貴重な研究成果は、先生方ご自身が属している学会の機関誌やその他の専門誌に発表されてきたようですが、これからは本協議会の研究年報にも発表して頂けるようになり・・・」とありますように、養成校の教職員による研究をここに集約し共に学びあえる養成教育に関する研究誌として発行されたことが読み取れます。その後、第10号(1992年)から『保母養成研究』に、第17号(1999年)からは『保育士養成研究』と標題が異なりますが、毎年度一冊発行してきました。但し、「諸般の事情により2・3号が合併号」となり、産みの苦しみの様子がうかがわれます。深山会長は、毎年重ねてきた研究大会での貴重な研究報告を生かして、その実績を踏まえ、「保母養成に関わる内容の研究年報としての性格をより明確にしたい」との決意を記しておられます。

ところで、研究誌として重要なことは査読委員会を構成し、きちんと査読がなされていることですが、第9号(1991年)に「編集規定に基づく審査委員会の審査を経ているものとする」と査読が入ったことが記されております。

創刊以来、『保育士養成研究』の編集要領、投稿要領、(投稿規定の時代もある)の見直しをたびたび行いつつ、そこに命を吹き込み、力を注ぎ、育ててくださった編集委員の先生方、英文要旨の校閲をご担当くださいました先生方、査読を引き受けていただいた先生方に心からの感謝を申し上げます。そして、たえざる努力を重ねつつ投稿をしてくださった会員校の皆様ありがとうございます。

本誌の発行を続けることができましたのはそうした多くの皆様の真摯なご努力と会員校のお支えがあったことを記してお礼を申し上げます。新たな旅立ちとなりますが、今後ともご指導をいただけますよう心からお願いいたします。